

斜視

斜視は手術で改善する

通常は見つめる対象物に向かって両目の視線がそろうのに対し、片目の視線が対象物からずれている状態を「斜視」という。斜視になると、両目を使った精密な立体感覚や、奥行きをとらえる力が低下する。

眼球をとりまく筋肉は、上と下、内側と外側、斜めに回るもの合計6本あり、これらの筋肉のバランスが崩れると、斜視を引き起こす。



眼科
木村 亜紀子 准教授

に見える症状は完全にはなくなりません。私たちは、まっすぐ前を見る「正面視」と、読書や書き物のときに使う「下方視」を正常に戻すことを目指し、手術を行っています。

ただし、ケガでも病気でもないのに麻痺性斜視の症状がある場合は注意が必要と、木村准教授。「脳腫瘍や多発性硬化症など、重大な病が潜んでいる可能性があります。その場合は、MRIや採血などで原因を調べる必要があります」。

斜視手術は約30分

手術では、眼球についている筋肉を強めたり（切除して縮める）、

「斜視の治療は、手術が基本となります。プリズム眼鏡などを使う治療もありますが、当院では術後に補足的に行っています」と話すのは、眼科の木村亜紀子准教授。手術により、眼球の周りについている筋肉のバランスをとることで、多くの斜視は改善するという。

子どもの斜視の特徴

物を立体的に見たり奥行きをとらえたりする視機能は、1〜3歳にかけて最も発達し、7〜8歳で発達を終える。この間に、両目で物を見ていないと、視機能は発達せず、立体的に物を見る機能が育たず、視機能が十分に備わらないまま大人になってしまう。

子どもの斜視は、先天性のものがほとんどで、目が内側に寄っている「内斜視」と、外側に寄っている「外斜視」が多い。「内斜視のお子さんは、両目の視線が常にそろわないために、視機能が育ちにくいんです。一方、外斜視のお子さんは、寄り目にする力を使って無意識に視線をそろえることができるため、物を立体的に見ること

ができ、視機能は比較的良いことが多いのです」。内斜視は2歳までに手術することが望まれる一方で、外斜視の場合は、子どもが手術に適した年齢に達するまで治療を保留することもあるという。

子どもの斜視でもう一つ多いのが「上斜筋麻痺」だ。目の上斜筋が麻痺した状態にあり、視線をそろえるためにいつも首を傾けているのが特徴だ。首の疾患と間違われやすいが、片目を隠すと顔の位置が正常に戻るため、眼科に行けば容易に診断でき、治療につなげられる。

大人の斜視の特徴

大人の斜視の代表は「麻痺性斜視」だ。頭部外傷などのケガや、動脈硬化や糖尿病などの病気が原因で起こる後天性の斜視で、物が二重に見える、眼精疲労を伴うのが特徴だ。

弱めたり（後ろに移動させて縫いつける）することによって、筋肉のバランスを整える。例えば、斜視の原因が右目の上斜筋にある場合には、下斜筋と上直筋を弱めて（後ろにずらして）バランスをとる。あるいは、斜視の出ている左目の下直筋を弱めて（後ろにずらして）、筋肉のバランスを右目でとることもできる。

「術式にはさまざまあり、患者さんによってどの方法を採用するかが最も重要になります。兵

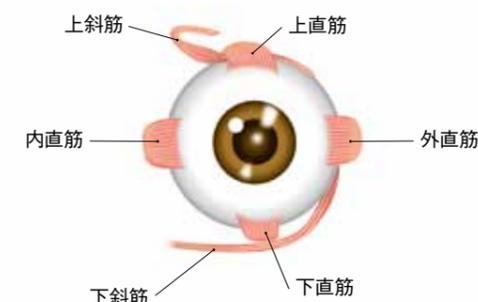
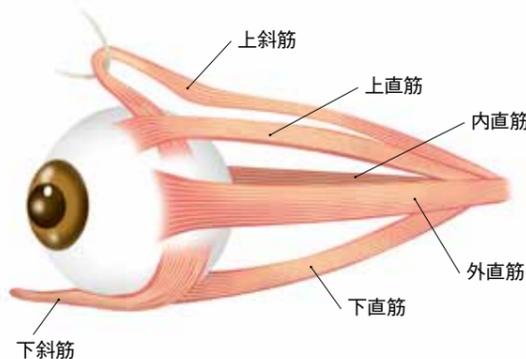
QOL向上のためにも

斜視の子どもを持つ保護者や、

庫医科大学病院には、豊富な手術実績があるので、患者さん一人ひとりに適した術式を選ぶことができます」。

手術時間はおおよそ30分とスピーディー。入院日数は、全身麻酔の場合で2泊3日、局所麻酔なら1泊2日、もしくは日帰りでも可能だ。

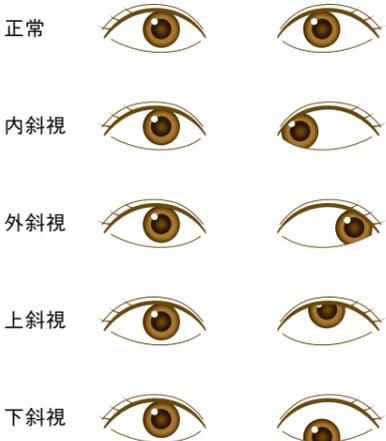
■眼球をとりまく筋肉



麻痺性斜視は、目の神経の一部が麻痺することで起こる。「子どもの斜視と同様、手術が有効ですが、麻痺性斜視の手術経験が少ないために手術自体を断る医療機関も少なくありません」と木村准教授。兵庫医科大学病院は、年間約700例という全国トップの症例数を誇るうえ、麻痺性斜視の手術に積極的に取り組んでいることから、全国から患者さんが訪れる。

手術は、日常生活を送るのに困らない視機能を取り戻すことが目的となる。「手術がうまくいっても、麻痺そのものが取り除かれるわけではないので、物が二重

■斜視の種類



患者さん本人の中には、手術するのが怖いからと、斜視を放置する人もいます。しかし木村准教授は「お子さんの場合は、いじめや仲間はずれの原因になりやすく、大人の場合は、就職時に不利になることもあります。精神的な負担を取り除き、生き生きとした人生を送るためにも、治療は必要だと思えます」と話す。

昨年完成した急性医療総合センターの5階には、眼科の手術機能を集約したアイセンターがあり、病棟と直結している。手術に立ち会った看護師が病棟にも出入りするため、患者さんにとっては、術後も顔見知りの看護師と接することができるという点で安心感がある。

「斜視は治らない、手術は怖い、とおっしゃっていた患者さんも、術後は『もう終わったの？』もっとうまく受けたら良かった」と喜ばれます。手術では、眼球の内部には触らないので、失明の危険もありません。ですから、ためらわず、安心して治療を受けてください」。

がん

目・耳・鼻・口の病気

胃・腸・食道の病気

呼吸器の病気

骨・関節の病気

脳・神経の病気

皮膚の病気

肝臓・すい臓・胆嚢の病気

腎臓・泌尿器の病気

循環器と血液の病気

全身の病気

こころの病気

女性の病気

子どもの病気